

「ふるさととは元気だよー」

中津市長 奥塚 正典

東京で在京中津会と2つの地元高校の関東同窓会に出席し中津のPRをしてきました。参加者は誰も久しぶりに会った同郷の友との話が尽きず本当に楽しそうです。中津駅、学校へ通った道など自分にとっての思い出の場所が今どうなっているか多くの方から尋ねられました。中津がさびしくなっているのではないかと心配してくれる人もいました。ふるさととはどこにいてもいつまで経っても忘れがたきものなのでしょう。

中津に住んでいる人は、今中津をどう感じているのでしょうか。若い人は都会にあこがれ一度は中津を離れて生活してみたいと考えているかもしれません。かつて都会での生活経験があり今中津在住の方は、きっと以前とは違った評価をこの中津にお持ちでないでしょうか。例えば、スーパーマーケットで売っているトレイ入りの魚一つを取っても、都会で買う魚との味、鮮度、価格の違いを十分に実感できます。また、どこに住んでも車で30分以内の距離で温泉が楽しめるなど東京では到底考えられない贅沢でしょう。

「大分の二度泣き」と言います。一度目は、大都市の本社から大分勤務を命じられると、「あんな田舎には行きたくない」と泣きます。数年後、大分から本社に転勤命令が出ると今度は「こんな良い大分から離れたくない」と泣きます。それほどに大分県は自然・文化・食が豊かで一度住むと安全で生活しやすく良いところだと言うのです。中津もその代表ですし、まして福岡に近い強みがあります。

子どもの時から中津にいる人、一旦中津を離れたが戻ってきた人、新たに中津に移り住んだ人、そんな市民の皆様と一緒に中津の魅力をさらに磨き輝かせ「暮らし満足ナンバー1」を目指します。そして、ふるさと中津を離れながら今なお中津を懐かしむ同郷の人たちへ「ふるさと中津は元気だよー」と声高に伝えたいものです。

